



令和2年特別号 No. 248

クラブテーマ:『新たな物語をつくろう』
例会日:月曜日18:30~19:30会 長:勝崎 猛
幹 事:村谷 哲也
クラブ会報委員長:横見 健太

第1004回(9月28日) 地区職業奉仕小委員会 岡田 等委員長 卓話 (オカダ合金株式会社 代表取締役社長) 「2020-2021年度 2610地区職業奉仕小委員会活動について」



これまで、ロータリークラブの根幹に職業奉仕があり、そこから派生して、枝葉として社会奉仕などの色々な活動があると考えられてきました。

職業奉仕という概念は難解です。また、日本人は、これは職業奉仕なのか、社会奉仕なのか、という分類をしないと気が済まない所があります。

しかし、ロータリークラブが行っている色々な活動は明確に職業奉仕とそうでないものとを区別できるわけではなく、複合的なこともあります。

ですから、今後はそのような区別をせずに色々な活動を行っている必要があるのではないのでしょうか。実際のところ、ロータリーの友を呼んでみても、内向き(職業奉仕)のものと外向き(社会奉仕)のものがあり、後者の方が多いという傾向もあります。

こういった観点で、改めて職業奉仕ということを考えて頂く機会にして頂ければと思います。

第1005回(10月5日) 地区米山奨学会委員会 村中 高次郎委員長 卓話 (株式会社アーツィ 代表取締役) 「米山奨学会の現状とこれから」



1946年日本のロータリーの創始者であり米山奨学会の名称ともなった米山梅吉が逝去されました。1952年東京RCにて梅吉氏の偉業を後世に残し伝えるため、海外から私費で日本に来ている留学生を支援し国際平和の懸け橋を構築しよう。1954年この構想が全国のRCに広がり「米山基金」の誕生です。1967年「米山記念奨学会」と国からの承認を得て名実ともに日本のロータリー単独事業となったのです。

・もう二度と戦争はしてはいけない、そのためには平和日本を知ってもらおう
それから53年、時代に応じた変化を取り入れ今に至ります。大きな変化はアジアの国々から世界の国々へとその支援の輪は広がり、125か国の国と約22,000人の留学生の支援をこれまでにしてきました。

一般の奨学金と違い、世話クラブカウンセラー制度、奨学期間が終わってからもロータリー精神にのっとり支援をしよう、です。2015年広島平和大会に米山終了生が世界から集まり、2017年熊本災害復興大会、この時にモンゴルの学友会が発した米山世界大会だ、の言葉が2019年モンゴルでの米山世界大会の開催に繋がりました。2021年は台湾です、2015年に正式に国際ロータリーの分科会と承認されたことも大きいです。

・世界に広がれ米山の輪、世界平和の芽を育てよう

会員からの寄付金によって運営されてますことも重要で、いかなる国からも利害関係など横やりを入れられることもなく国際交流と世界平和を純粋に守っております。全ての寄付金は奨学生のために使われていることご報告いたします。